

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

大分県 由布市

自治体名：大分県由布市

担当課名：学校教育課

電話番号：097-582-1179

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	319.32 km ²
人口	33,565 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	841 人
部活動数	28 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	由布市学校部活動地域移行連携協議会（年3回）
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	方針（令和6年1月）、推進計画令和6年4月策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

（1）現状

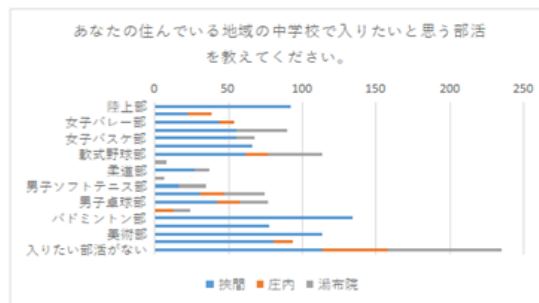
令和5年度、「由布市学校部活動の地域移行へ向けた連携協議会」を3回開催し、「由布市学校部活動及び新たな地域クラブの在り方等に関する方針」を作成した。令和6年度からは挟間中学校区において「総合型スポーツクラブ」が受け皿となり、令和8年度からの休日における地域移行へ向けて組織づくりを行う。文化クラブは、令和6年度から協議を進める。

小学校4～6年生児童アンケートの結果から、「入りたい部活動がない」と回答した児童は235名であり、「校区外の中学校に希望する種目の部活動があったら入りたいと思いますか」の問いに「入りたい」と134名が回答した。また、中学校1・2年生生徒アンケートの結果から、「通っている中学校に希望する部活動や地域クラブがない場合、市内のどこかを拠点とする活動する地域クラブがあったら参加を希望しますか」の問いに、「参加してみたい」と93名が回答した。

（2）課題

庄内町と湯布院町については、地域移行（指導者派遣）の受け皿が未定である。令和6年度の総合型スポーツクラブの取組を参考に取組内容を考えていく。「指導者の確保」、「指導者派遣及び管理」、「活動場所の確保及び手続き、支払い」等についてのシステムを構築する必要がある。

学校においては、令和5年度中に、全中学校教職員、新入生の保護者、中学1・2年生の保護者への説明を完了したが、合同型や拠点校型等の対応のために、各校の部活動主任と学校教育課で協議を行い、令和6年4月からの立ち上げのための準備を進めていかなければならない。



出典：10/27～11/7実施 「休日における中学校部活動の地域移行」に向けてのアンケート

Q8. 校区外の中学校に希望する種目の部活動があったら入りたいと思いますか。

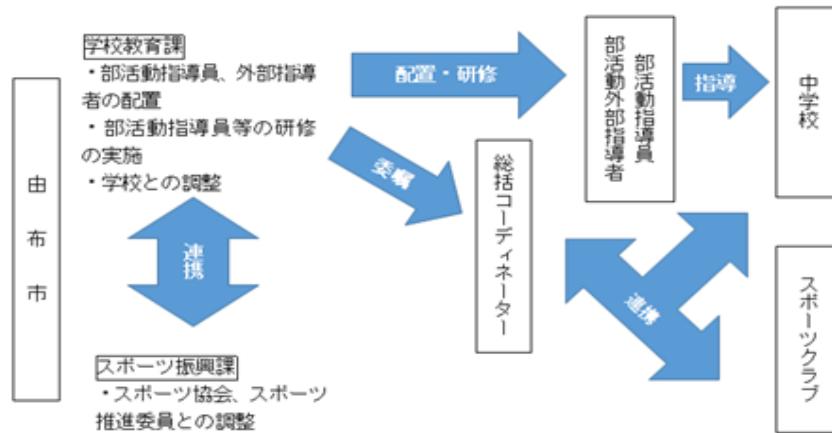
1	入りたい	134
2	入りたくない	215
3	わからない	522

出典：10/27～11/7実施 「休日における中学校部活動の地域移行」に向けてのアンケート

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

主に学校との協議、調整を行う。休日における学校部活動の地域移行へ向けた取組を総合型スポーツクラブ、スポーツ協会、スポーツ推進委員、中学校、保護者代表らと連携して取り組む。

◎首長部局

主に総合型スポーツクラブやスポーツ推進委員との協議、調整を行う。学校教育課と連携して地域移行へ向けて取組を行う。

年間の事業スケジュール

令和6年 4月	総合型スポーツクラブ運営会議
令和6年 5月	由布市指導者研修会
令和6年 6月	第1回学校部活動検討会議（文化部）
令和6年 7月	第1回学校部活動地域移行連携協議会
令和6年 8月	第2回学校部活動検討会議（運動部）
令和6年 9月	第3回学校部活動検討会議（文化部）
令和6年10月	第4回学校部活動検討会議（運動部）、 総合型スポーツクラブと市教委の協議
令和6年11月	総合型スポーツクラブ協議
令和6年12月	第2回学校部活動地域移行連携協議会
令和7年 1月	第5回学校部活動検討会議（運動部）
令和7年 2月	総合型スポーツクラブ協議
令和7年 3月	第3回由布市学校部活動地域移行連携協議会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		バドミントン
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		バレーボール
全体の指導者数	6人	全体の運営スタッフ数	6人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
由布川ジュニアバドミントン		バドミントン	月 8回 / 週 2回	水 18:00 ~ 20:00 土: 9:00 ~ 12:00	中1~中3	4月 ~ 3月	挾間中学校、挾間体育センター	2人	2人 （内、兼務0人）	月会費 1,000円 / その他大会参加費用	中体連： 部活動 その他： 地域クラブ
RAVENS（レイブンス）		バレーボール	月 12回 / 週 3回	火水土 18:00 ~ 20:00	中1~中3	9月 ~ 3月	挾間体育センター	4人	4人 （内、兼務0人）	月会費 3,000円 / その他遠征費用	中体連： 地域クラブ その他： 地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

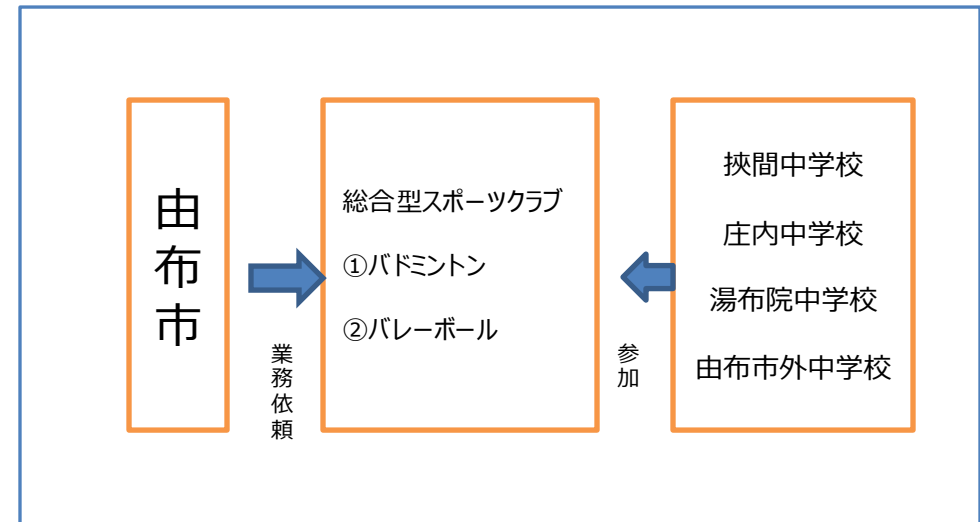
- なし

主な取組例

●総合型スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン、バレーボール
運営団体名	総合型スポーツクラブ
期間と日数	バドミントン：4月1日～3月31日 月8回程度（など） バレーボール：8月26日～3月31日 月12回程度（など）
指導者の主な属性	資格保有者
活動場所	挾間中学校体育館、挾間体育センター
主な移動手段	徒歩、自家用車
1人あたりの参加会費等（年額）	バドミントン：12,000円 バレーボール：36,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者（コーディネータ）
役割：地域移行へ向けた取組の責任者。学校教育課と連携。
- 主任指導者 2名
役割：活動における指導責任者として、生徒への指導を行う。
- 運営補助者 4名
役割：活動において、指導責任者の補助として、指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

総括コーディネータは、「教職員との連絡調整や具体的な取組の協議、保護者への説明等」「総合型スポーツクラブとの取組のための協議」を中心に取り組む。総括コーディネータと総合型スポーツクラブのコーディネータを中心に、学校教育課担当・スポーツ振興課担当と連携しながら取り組む。

取組の成果

総括コーディネータは、年3回の由布市学校部活動地域移行連携協議会や年5回の学校部活動検討会議（中学校と総合型スポーツクラブ、スポーツ振興課・学校教育課等）等の連絡調整や運営を推進してきた。その中で、総合型スポーツクラブの実態や意向を把握したり、中学校の文化部活動の現状や希望を把握したりすることができた。年4回、バドミントンチームを訪問し、指導上の困りや悩みを聞き取り、学校との話し合いの設定・解決に向けて取組を行った。それを受けて、学校との協議を設定し、課題解決に結びつけることができた。

コーディネータの具体的な動きの実績

【総括コーディネータ】

- ・年4回バドミントンチームを訪問し、地域移行へ向けた課題についてのヒアリング・助言等を実施。
- ・連携協議会や検討会議の設定をし、関係団体との連携に努めた。

今後の課題と対応方針

- 今後、大分県が示した地域スポーツクラブ活動の要件や基準等を調整して設定し、登録・指定等を明確にする必要があると考える。
- 地域移行に係る内容について、総合型スポーツクラブの取組内容を協議して整備する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

質の向上に向けて、5月「指導者研修会」を実施。コンプライアンスや救急法、熱中症対策について研修を行った。量の確保に向けては、由布市で任用している外部指導員を学校と相談しながら増員し、休日における指導をしていただいた。

取組の成果

この研修会より、指導者は生徒の安全を確保するための知識と技能を習得し、万が一の事態にも適切に対応できるようになる。また、コンプライアンスに関する理解を深めることで、ハラスメントの防止や適切な指導方法の徹底が図られ、より安心できる部活動環境が構築される。

外部指導員の活用により、休日における部活動の練習時間の確保や生徒の技術向上につながった。令和6年度も定期的な指導者研修会の実施や各校との協議により、安全・安心な活動を展開することができた。

人材バンクの人数

30名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	3名
30代	3名
40代	7名
50代	9名
60代以上	8名

登録者属性

由布市学校教育課が、中学校から、候補者を聞き取り、中体連の大会参加要件を確認してから指導にあたっていただく。

種目

- ・バドミントン
- ・バレーボール

資格有無

バドミントン（資格有）
バレーボール（資格有）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- ①由布市学校部活動指導員・外部指導者合同研修会
 - ・対象：部活動指導員、由布市で任用している外部指導者、地域クラブ指導者
 - ・目的：安全・安心で持続可能な指導を行うため
 - ・工夫した点：コンプライアンス「生徒の人権を尊重した部活動のあり方」や救急法「心肺蘇生法及びA E D使用方法」、熱中症対策の3本柱で、バランスよい研修を実施した。
- ②指導場所への訪問による指導者研修
 - ・対象：部活動指導員、由布市で任用している外部指導者、地域クラブ指導者
 - ・目的：指導上の困りや悩みを聞き取り、協議し解消する。

指導者研修の参加実績

- ・開催日：①5月11日（土） ②3月1日（土）、15日（土）
- ・開催回数：①1回 ②2回
- ・参加人数：①15人 ②15人、15人

受講者の声

「大規模校では、多くの部活動の練習が行われるため、割り振りすると、練習時間が足りないと思うときがある。種目の性質上、練習時間の少なさは、上達をめざすとなると、気になる。」

「希望する生徒が、自分の目標に向かって取り組む手助けができればいい。」

「今後、休日を中心に学校部活動は地域移行していくが、用具の管理や鍵の開け閉めは気になる。」

今後の課題と対応方針

部活動指導員、由布市で任用している外部指導者、実証事業に参加する地域クラブの指導者が揃って研修会に参加し、情報共有できるよう、日程や研修内容、呼びかけの方法等を工夫していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

由布市学校部活動地域移行連携協議会の定期的な開催（年3回）を基盤として実施した。その間、「学校教育課と中学校部会」、「学校教育課・スポーツ振興課と総合型スポーツクラブ」、「学校教育課と総合型スポーツクラブ」等、各種段階ごとに協議する場を多く実施し、現状の把握と取組の可能性を明らかにすることができた。

取組の成果

由布市学校部活動地域移行連携協議会の定期的な開催は、その基盤として非常に重要な役割を果たしており、現状の部活動が抱える課題や各学校の実情を詳細に把握することができた。指導者の不足、特定の部活動への偏りなど、これまで漠然としていた問題点が、関係者間で共有されることで明確になった。

また、現段階では、令和8年度に向けて、受け皿となる団体を決めることが困難であるが、総合型スポーツクラブができることとできないこと、さらに他の2つの総合型スポーツクラブができることとできないことが明らかになったので、令和7年度に準備すべきことが見えてきた。

「指導者派遣を中心に取り組む受け皿団体」と「謝金の管理を行う受け皿団体」を分けて決定していく必要があることが分かった。

今後の課題と対応方針

総合型スポーツクラブを受け皿にして、地域展開へ向けた取組を進めていく計画であるが、できないこと（謝金の徴収や指導者への支払い）が明らかになったので、「謝金管理」を行う受け皿を考えていかなければならない。

また、継続的な指導を担える人材の確保が重要になる。部活動の種類や学校の規模によって必要な指導者の数が異なり、需要に応じた安定的な人材が必要になる。今後は、多様な人材を指導者として発掘・育成するための仕組みを構築し、指導者が安心して指導できるようなサポート体制の整備をめざす。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

挟間中学校区内において、総合型スポーツクラブを指導者派遣の受け皿として、モデル地域として取り組んだ。謝金の集金や指導者への支払いについても、調査研究を行った。

また、庄内地域や湯布院地域とも協議し、自分の地域で実施可能かどうか、研究を行った。庄内町から、バドミントンチームに参加する生徒が出てきた。

各自治体の役割

- 由布市教育委員会
 - ・ 地域クラブ
 - ・ 関係機関の連絡、調整
 - ・ 理解促進に向けての広報
 - ・ 受け皿団体の決定

移動手段

なし

事務局運営の方法

- ・ 令和6年度は、総合型スポーツクラブと学校教育課が協力して事務局を運営。
- ・ 総括コーディネータが関係団体等との連絡調整を実施。

取組の成果

実証事業でバドミントンを実施する中で、バレーボールが総合型スポーツクラブに所属して参加し、硬式テニスやサッカーのように所属せずに活動する地域クラブも出てきており、生徒が活動することができる環境が広がりつつある。

今後の課題と対応方針

全市から指導者を発掘する由布市の生徒が安心して選択することができるよう、「指導者派遣」や「謝金の管理」ができるような組織を作り上げていかなければならない。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

バドミントンチームへ指導者派遣をすることを通して、指導者派遣の人数が増えても対応が可能となるよう、学校教育課と総合型スポーツクラブが協議しながら、取り組んできた。

総合型スポーツクラブや中学校、学校教育課と何度も協議を重ねていくことにより、令和7年度に向けて、学校部活動にはない種目についても、現存する団体に働きかけていこうというところまで話し合いが進んでいる。

活動の詳細			
参加人数	7人	指導者数	2人
属性	バドミントン		
具体的な内容	バドミントンの指導及び生徒の心身の成長のための活動		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学になって初めて本格的にバドミントンに取り組み、楽しさが分かった。 ● 友だちとバドミントンを続けていきたい。 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 庄内や湯布院からも参加できるようになったことはよい。 ● 練習する場所への移動が、やっぱり遠く感じる。 		
運営経費	月会費1,000円×12月、大会参加費等		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

バドミントンチームへの指導者派遣は、単に特定の部活動を支援するだけでなく、指導者派遣体制全体の強化という成果をもたらした。学校教育課と総合型スポーツクラブが協議を重ねながら取り組むことで、指導者派遣の仕組みが構築されつつある。これは、将来的に他の部活動へも指導者派遣を拡大していく上での貴重なノウハウと基盤となる。

総合型スポーツクラブ、中学校、そして学校教育課が協議を重ねてきた結果、令和7年度に向けて、学校部活動にはない種目についても、現存する地域団体に働きかけていくという具体的な話し合いが進んでいる。これは、従来の学校部活動の枠組みを超え、地域の多様なスポーツ・文化資源を積極的に活用していくという大きな方向転換につながる。

また、実働数は少ないが、令和8年度に向けて、スポーツ協会やスポーツ推進委員、スポ少等の団体とも、指導者の発掘のための話し合いを持つことができそうな状況ができつつある。

今後の課題と対応方針

バドミントンの事例を他の種目へ横展開する際、各競技の特性に応じた専門的な指導者を安定的に確保できるかが課題である。指導者個人のスキルアップだけでなく、チームとしての指導力向上や、世代交代を見据えた若手指導者の育成も重要となる。

また、令和8年度に向けて、「謝金の徴収や支払いの受け皿団体」、「指導者を派遣するための受け皿団体」を分けて取り組んだ方がよいことが分かった。そのため、協議とシステムづくりが喫緊の課題である。早めに、生徒や保護者に伝えていかなければならない。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

予算要求をして確保した金額内で、実施した。バドミントンチームを運営するために必要であった金額を試算した。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・事務用品（8千円）

■ランニングコストの分析

・指導者謝金（180千円）
 ・事務局人件費（576千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

項目	内容	金額（円）
1. 受益者負担	① 1か月の定額の会費	1名あたり 1000円/月
2. 臨時的負担	② 臨時的な会費と内容（用具代・大会参加費等）	（金額） 1500円× 7大会参加 （内容） 大会参加料 10500円

※バドミントンクラブへの調査より

毎月1,000円をシャトル代として、また、年間7回ある大会参加時に、必要な金額を集金している。しかし、その他に「消耗費」、「印刷費」、「会議費」、「保険料」が必要。

収支バランス

1. 消耗費	① 活動で使う用具代（ボール等）シャトル代	129,000
	② 事務で使う用具代（ペン等）	5,000
2. 会議費	① 連絡会議、総会等の開催費用（お茶代等）	5,000
3. 印刷費	① 募集案内印刷、ポスター印刷等	5,000

※バドミントンクラブへの調査より

左記の代金、合計144,000円が必要。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

予算要求を行い、確保した金額内で実施できたことは、運営の基盤を確立する上で重要な成果である。これにより、チーム運営に必要な資金を計画的に確保し、効率的に使用できる見込みを立てることができる。

「毎月1,000円」、「年間7回の大会参加費」、「消耗品」、「印刷費」、「会議費」、「保険料」といった費用項目を具体的に挙げることで、現在集金している費用だけでは補えない部分が明確になり、今後の予算要求や費用徴収の議論を進める上で、具体的な根拠となった。これにより、運営の実態に即した、より精緻な予算計画と費用徴収の必要性が分かった。

これらの取組は、クラブチームの運営において、財政の透明性と持続可能性を高めるための重要なポイントとなる。特に、費用の試算と明確な徴収、そして見落とされがちな隠れた運営費の洗い出しは、今後の安定したチーム運営にとって不可欠な基盤である。今後、地域クラブの数が増えてきた場合、必要となる経費の参考にしていきたい。

今後の課題と対応方針

「消耗費」、「印刷費」、「会議費」、「保険料」といった現在集金しているシャトル代や大会参加費だけでは補えない費用が認識されているものの、これらの追加費用をどのように捻出し、継続的に確保していくか、具体的な財源が未確定であり、保護者への追加徴収、外部からの資金調達など、選択肢を検討する必要がある。

また、「移動費等を含んだ見積もり」や「すべての種目を一括して謝金の管理をする場合の見積もり」を立てる必要がある。経済的に困窮する世帯の生徒の会費に対する支援も必要と考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

資料

収入内容	金額	詳細
月会費2,000円の場合の年間総会費 ○8割の生徒が加入した場合	12,960,000円	(1、2年) 2,000円×300人×12月×2学年 = 14,400,000円 (3年) 2,000円×300人×3月×1学年 = 1,800,000円 14,400,000円 + 1,800,000円 = 16,200,000円 16,200,000円×0.8 = 12,960,000円

内容	金額	詳細
1. 指導者への謝金	12,768,000円	1時間あたり1,000円とした場合 (平日) 1,000円×2時間×1日(水・金曜日) = 4,000円 (休日) 1,000円×3時間×1日(休日) = 3,000円 (4,000円 + 3,000円) × 4週 × 38人 × 12月 = 12,768,000円
2. 受け皿団体職員	1,350,000円	(例) 135万円×1人 = 1,350,000円
3. 総合型スポーツクラブ活動費	協議後に決定	協議後に決定
4. 移動費	960,000円	1,000円×2人×1日×4週×12月 = 960,000円
5. 就学援助家庭への補助	1,200,000円	1か月あたり1000円を、100家庭へ援助する場合。 1,000円×100戸×12月 = 1,200,000円

支出 12,768,000 + 1,350,000 + 960,000 + 1,200,000 = 16,278,000円

12,960,000円 - 16,278,000円 = -3,318,000円

※上記は、決定事項ではないが、試算したものの。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

学校体育館などを地域の総合型スポーツクラブに定期的に開放した。挟間中学校や挟間体育センターを中心に部活動や他の団体と協議しながら活用してきた。今後、地域クラブが増加することを想定し、他の学校の施設等、使用できる施設を増やせるように他の関係機関と連携し、検討していく。

取組の成果

学校体育館や市の体育館という既存の公共施設が、部活動だけでなく地域の総合型スポーツクラブにも開放されたことで、施設の稼働率が向上し、地域資源の有効活用が進んだ。これにより、生徒たちは学校の部活動時間外や休日に、より充実した環境で練習できる機会を得られ、生徒の競技力向上につながっている。

施設利用について、他の団体との間で定期的な協議を重ねてきたことは、関係機関との連携を深めることができた。これにより、各団体のニーズや課題が共有され、施設の利用調整が円滑に進むだけでなく、より多角的な協力関係の構築につながった。

学校施設や公共施設を利用する場合、地域クラブが求める活動内容によっては、学校施設がその種目に特化した設備（例：特定の競技コート、ネットなど）を備えていない場合があり、より専門的な活動を行うためには、新たな設備投資が必要となることが分かった。

今後の課題と対応方針

今後、地域クラブチームが増加すると、それぞれのチームの兼ね合いや、地域団体ごとの利用希望の調整がより複雑になることが予想される。挟間町内の公的施設だけでは不足する見込みであり、市内全体で空き状況を確認し、公平に使用できる環境を整えていく必要がある。また、地域クラブが求める設備は多岐にわたる可能性があるため、全ての要望に応えることは難しい。どの設備の導入を優先するか、その選定基準を明確にする必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度は、由布市学校教育課とスポーツ振興課にとって、「議論の年」であった。令和5年度に実施した、「小4～中2の児童生徒及び保護者へのアンケート」の結果分析から、現段階（令和6年4月）で休日における学校部活動の地域移行へ向けてできることとして、「拠点校方式」を実施した年であった。そのような中、総合型スポーツクラブから指導者派遣をする形でバドミントン、総合型スポーツクラブに加盟して活動するバレーボールのように、少しずつ拡大をしている状況である。一方、中体連の大会へ参加することができる地域クラブとして、サッカーチームや硬式テニスチームも誕生している。これらは、総合型スポーツクラブに加盟しておらず、参加条件を満たしているため、今後は、施設利用が半額になる特典等を紹介し、加盟の方向で進めることができそうなことが分かった。さらに、指導者発掘においては、今年1年間取り組んできた総合型スポーツクラブが人材バンクを作成することができる見通しが立っているので、県の人材バンクと上手に活用していきたい。

●成果の評価

令和8年度からの学校部活動の地域移行へ向けて、令和6年度は、指導者派遣を中心とした受け皿として、総合型スポーツクラブに1年間運営していただいた。指導者に対する謝金は由布市から直接支払いをするが、指導者の指導時間の集約や学校教育課への報告等に取り組んだので、地域クラブ数が増加しても対応することができることが分かった。また、学校教育課やスポーツ振興課、中学校とともに、総合型スポーツクラブも「地域移行へ向けた案づくり」の協議に複数回参加していただいたので、総合型スポーツクラブができることとできないことが明確になった。

●今後に向けて

「指導者の発掘や管理、派遣等の受け皿団体」と「謝金の徴収、管理、支払い等の受け皿団体」を令和7年度中に決定していかなばならない。決定すれば、準備ができる。

また、サッカーや硬式テニスのように、中体連大会参加資格を持つ地域クラブは、生徒の競技機会の多様化に貢献します。今後は、このような既存クラブが総合型スポーツクラブに加盟するメリットを具体的に提示し、スムーズな移行を促していく。

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置、
検討開始

受け皿団体や
指導者の選定、
拠点校の選定

学校現場との
調整

生徒、保護者へ
の説明

令和6年

地域クラブ活動
の開始

令和7年

地域クラブ活動
の拡大

●ステークホルダー

由布市学校部活動地域移行連携協議会の設置、方針の策定、推進計画の協議

●経過

令和6年度は連携協議会を3回開催。委員との協議を通じて意見をいただいた。

●実施にあたって生じた課題

謝金の徴収や支払い、管理等を行う受け皿団体の決定が難しい。

●実施内容、工夫した点等

「方針」「推進計画」を連携協議会で協議を通して決定。

●ステークホルダー

受け皿団体や指導者の選定、拠点校の選定

●経過

バドミントンが既存の地域クラブとして活動していたので、お願いした。

●実施にあたって生じた課題

謝金の管理（徴収や支払い）をすることは、大きな責任を感じるという声が多かった。

●実施内容、工夫した点等

拠点校の選定は、3中学校の校長から各部活動の顧問に現状と今後の方向性を話してもらい、協議を重ねて、受け入れを考えていただいた。

●ステークホルダー

保護者への説明、地域クラブ開始

●経過

令和6年3学期、新入生保護者・在校生保護者に説明。

●実施にあたって生じた課題

令和8年度からどうなるのかという声が中学校教職員から上がり、市に具体的方針を早く出してほしいという要望が出された。

●実施内容、工夫した点等

地域クラブとしての要件を理解していただくために、総括コーディネータを中心に学校教育課やスポーツ振興課が指導者や総合型スポーツクラブと一緒に協議を重ねて共通理解をすすめた。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和6年度

- ① 総合型スポーツクラブから指導者派遣を行い、バドミントンチームで実証事業実施。総合型スポーツクラブに所属して活動するバレーボール、また、所属していないがサッカーチームや硬式テニスチームが地域クラブとして活動が始まった。
- ② 関係団体との協議が進み、めざす方向性が見えてきた。
- ③ 謝金の管理を行う受け皿団体は大きな業務であることが改めて浮き彫りとなった。予算要求や受益者負担を詳細に見積もり、必要かつ可能な会費設定を立てなければならない。

令和7年度

- ① 令和8年度からの休日における学校部活動の地域移行の具体案を決定する。
- ② 指導者派遣の受け皿団体、謝金の管理をする受け皿団体を決定する。
- ③ 由布市版人材バンクを作成する。そのために、中学校で現在指導してくださっている指導者をはじめ総合型スポーツクラブやスポーツ協会、スポーツ推進委員、スポ少等に説明をし、生徒へ指導ができる方を発掘する。

令和8年度

- ① 休日における学校部活動は、教職員による指導とならないよう（希望者は除く）、地域展開をスタートできる状態にしておく。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

大分県 国東市

自治体名：大分県国東市

担当課名：学校教育課

電話番号：0978-73-0066

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	318 km ²
人口	25,074 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	520 人
部活動数	27 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

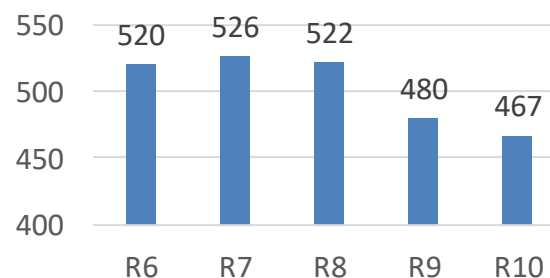
【国東市の運動部活動の現状】

1. 年々生徒数と部活動への入部率が減少している。単独で活動できる部活動数も減少している。
2. 合同チームと部員数が少人数（3名以下）の部活動の生徒がジャンボタクシー等で移動し専門性のある指導者のもとで合同練習ができるように財政的な支援をしている。
3. 競技歴のない教師のみの指導体制である部活動があり、専門的な指導を十分受けられない現状がある。

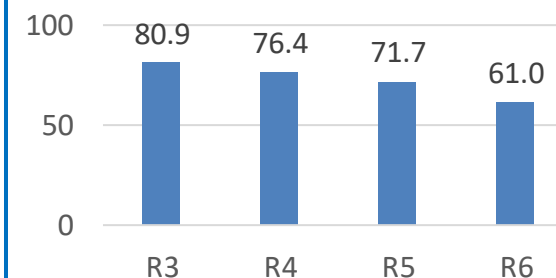
【地域連携・地域移行における国東市の課題】

1. 地域での指導者の確保
2. 地域での受け皿の確保
3. 地域移行した場合の練習場所や体制、移動手段等
4. 運営主体の構築と行政の関わり

生徒数の推移



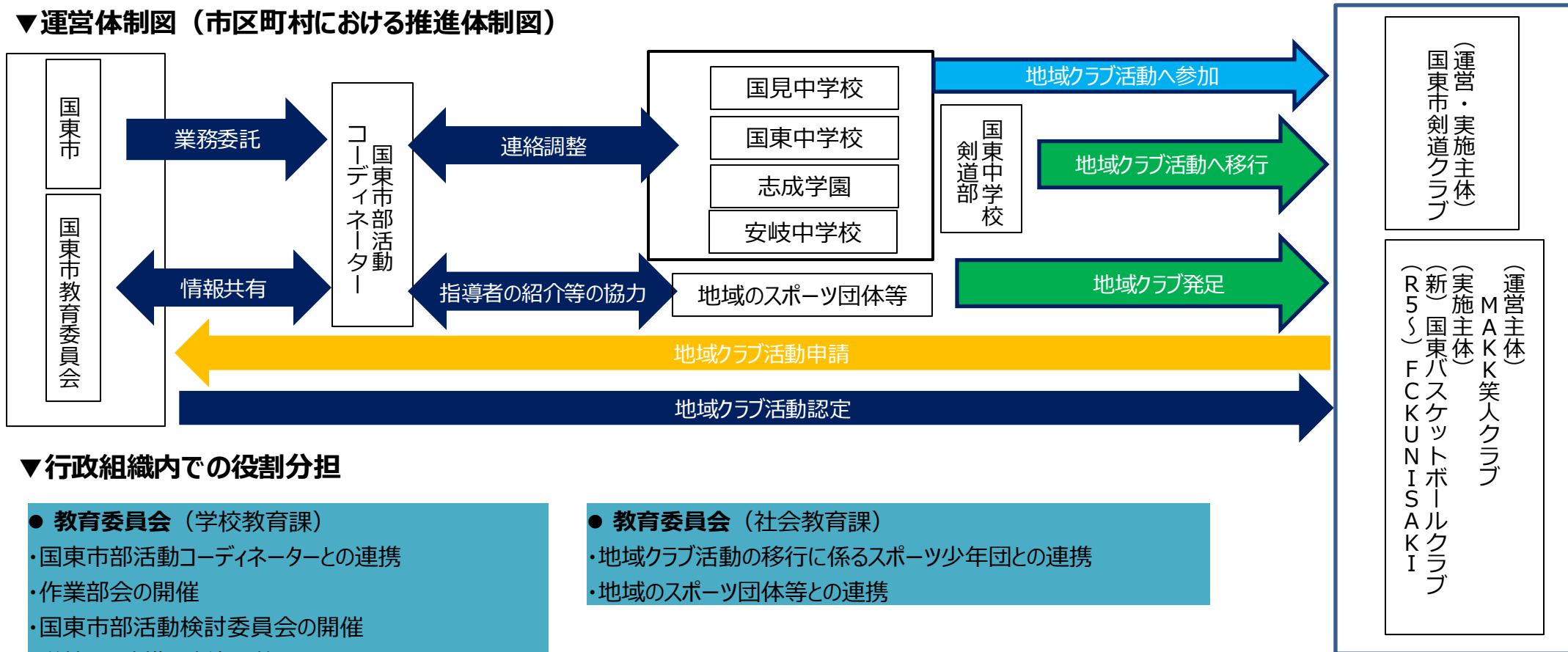
入部率の推移



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（学校教育課）

- ・国東市部活動コーディネーターとの連携
- ・作業部会の開催
- ・国東市部活動検討委員会の開催
- ・学校との連携、連絡調整
- ・児童生徒、保護者説明会の実施

● 教育委員会（社会教育課）

- ・地域クラブ活動の移行に係るスポーツ少年団との連携
- ・地域のスポーツ団体等との連携

年間の事業スケジュール

- ・作業部会（8月・11月・1月・2月）
- ・児童生徒・保護者へ地域移行についての周知（4月）
- ・「国東市中学校・義務教育学校の部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針（R6.3策定）」の周知（4月）
- ・国東市部活動検討委員会（8月・2月）の実施
- ・スポーツ推進委員、スポーツ協会等への周知（5月・6月）

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	7人	全体の運営スタッフ数	7人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
国東市剣道クラブ	国東市剣道クラブ	剣道	週4回	18:00 ~20:00	2年6人 3年1人	R6.4~	国東中 剣道場ほか	3人	3人	月会費 2000円	中体連ほか
FC KUNISAKI	MAKK 笑人クラブ	サッカー	週3回	平日17:30 ~19:30 休日 9:00 ~12:00	1年10人 2年3人 3年1人	R5.6~	安岐多目的 グラウンド	2人	2人	月会費 2000円 年会費 3000円	中体連ほか
国東バスケットボールクラブ	MAKK 笑人クラブ	バスケット ボール	週2~3 回	平日19:00 ~20:30 休日 9:30 ~12:00	1年11人 2年2人	R6.9~	安岐中 体育館	2人	2人	月会費 1000円 年会費 3000円	中体連ほか

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 国東市部活動コーディネーターの配置
 - ・学校部活動、地域クラブ活動の実態把握
 - ・地域スポーツ関係者との連携
 - ・部活動以外のスポーツ・文化活動の受け皿の発掘
 - ・市の実状や課題に応じた地域クラブ活動の運営実施の在り方の検討
- 部活動検討委員会（年2回）
- 作業部会（年4回）

取組の成果

- 国東市部活動コーディネーターを配置することで、学校やスポーツ団体等との連絡調整を行うことができた。併せて、学校部活動の地域移行の受け皿だけでなく、スポーツ・文化活動の受け皿の発掘や現状把握を行うことができた。
- 国東中学校の剣道部について、地域の剣道団体が受け皿となり、地域クラブ活動に移行した。また、以前、部活動競技として活動していたバスケットボールについて、新規に地域クラブが発足し、選択の幅を広げることができた。2クラブともに中体連主催の大会に出場することができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・市教委や学校等との連絡調整
- ・学校部活動、地域クラブ活動の現状把握
- ・地域スポーツクラブ代表、スポーツ団体関係者との協議
- ・地域の指導者の発掘
- ・部活動以外のスポーツ・文化活動の受け皿の発掘
- ・部活動検討委員会に係る作業部会等の資料作成、準備

今後の課題と対応方針

- 国東市部活動コーディネーターを引き続き配置する。
- スポーツ協会やスポーツ少年団等へも地域移行に向けての共通理解を図っていく。
- 各種アンケートを実施し、市民のニーズや課題を把握する。
- 教育委員会部局だけでなく、市長部局とも連携し、運営体制について検討を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- 指導者と受け皿となる運営団体や実施主体を確保するため、部活動コーディネーターを中心に教育委員会部局で連携して取り組む。

取組の成果

- 令和6年3月に策定した「国東市中学校・義務教育学校の部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針」をもとに、地域移行について市スポーツ推進委員会、市スポーツ協会、社会教育委員会等で説明し、指導者の確保に向けて、今後の協力を依頼した。
- 部活動コーディネーターが、スポーツ協会や連盟等の関係者に対して、地域移行に向けた環境整備や指導者や受け皿について聞き取りを行った。

今後の課題と対応方針

- 部活動コーディネーターを中心に、地域クラブや総合型地域スポーツクラブ等から、運営についての課題やニーズを把握する。
- 学校教職員等に適宜アンケートを実施し、指導者の確保に向けて市内の状況を把握する。
- ニーズや課題等を把握しながら、地域移行のスケジュールに沿って、可能な競技から地域移行を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・部活動の地域移行にむけて定期的に部活動検討委員会を開催し、学校、総合型地域スポーツクラブ、地域スポーツ団体、保護者、市教委等の連携を図る。

・「地域クラブ」との連携を図るための協議会を立ち上げ、市教委とコーディネーターが中心となって運営する。

取組の成果

・部活動検討委員会の開催に向けて、部活動コーディネーター、中学校及び義務教育 学校長、教育委員会担当部局員による作業部会や準備会を開催し、検討内容について協議を行うことで焦点化した国東市部活動検討委員会の運営ができた。

・部活動コーディネーターが、市内の状況を常に把握し、それをもとに、部活動検討委員会や作業部会の資料作成を行うことができた。

・定期的に部活動コーディネーター、教育委員会部局内で共通理解を行った。

取組の成果

・地域スポーツ団体関係者、総合型地域スポーツクラブ関係者、保護者、中学校関係者、行政関係者等による「国東市部活動検討委員会」を年2回開催し、地域移行について 具体的に協議することができた。

・地域移行のスケジュールや運営体制について協議を通して、方向性を共通理解することができた。

今後の課題と対応方針

・活動している実施主体や運営主体への調査や地域、児童生徒、保護者への調査を適宜行い、ニーズや課題を把握する。

・地域移行に係る協議会の立ち上げに向けて、市長部局と連携して取り組む。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○国東市部活動コーディネーターの配置2年目であったが、本年度は、昨年度から継続のコーディネーター1名に加え、地域のスポーツ・文化芸術活動の受け皿の確保に向けて、1名のコーディネーターを増員して配置した。

○学校部活動の地域移行だけでなく、地域で子どもを育てるという観点から、部活動未加入の生徒が体験できる場の発掘に向けて取り組んだ。

○部活動検討委員会を通して、今後のスケジュールや地域クラブ活動の在り方について検討することができた。部活動コーディネーターの配置は地域移行・地域展開を進めていくうえで、非常に有効であった。

●成果の評価

○継続2年目のコーディネーターは退職教職員という立場を生かし、積極的に中学校を訪問し、学校の意向や部活動の状況を丁寧に聞き取り、学校部活動にある競技ごとの移行スケジュールを構築することができた。スポーツ関係者とも積極的に折衝し、地域移行が可能な競技については速やかに移行に向けた話し合いの場をもった。

○新規1年目のコーディネーターはスポーツ推進委員ほか、学校や地域における様々な職を務めている。保護者だけでなく、児童生徒への聞き取りを通して、地域のニーズ、市内の部活動以外の状況の把握を積極的に行った。地域スポーツクラブとの連携や市外の状況把握について活動した。

●今後に向けて

○部活動コーディネーターを引き続き配置して、地域クラブや総合型スポーツクラブ等の運営上の課題・ニーズを把握していく。また、学校とも連携を図りながら、円滑な地域移行に向けて保護者や児童生徒に対する情報発信を行っていく。

○部活動コーディネーターと連携しながら、地域の実情に合った地域クラブの立ち上げ・運営を支援していくとともに、地域移行のスケジュールを着実に進めていく。

アンケート結果・参加者の声

「部活動地域移行に関するアンケート」について

※国東市HP掲載

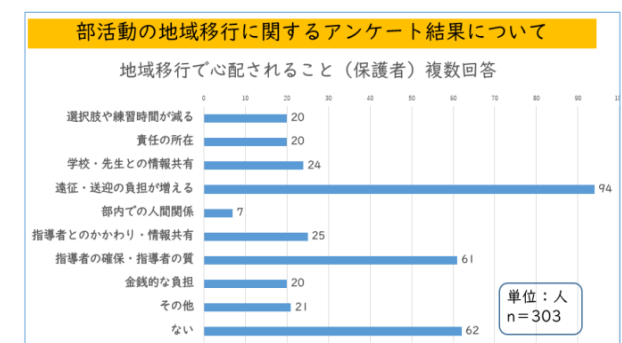
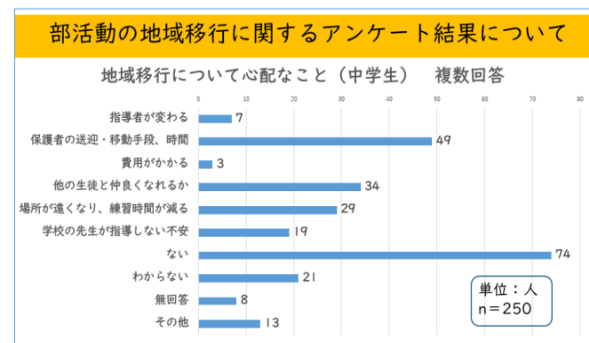
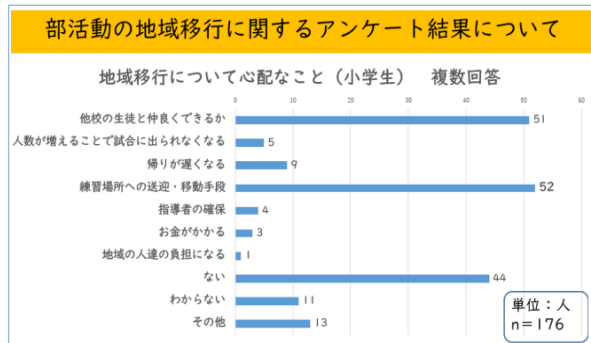
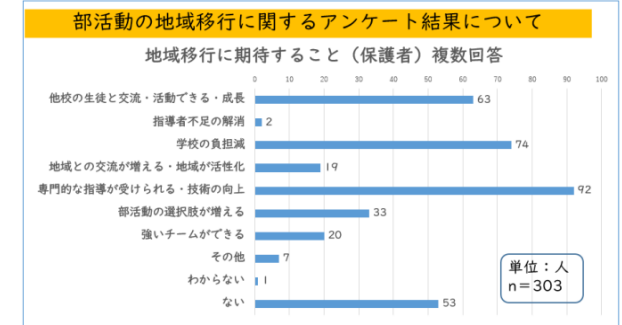
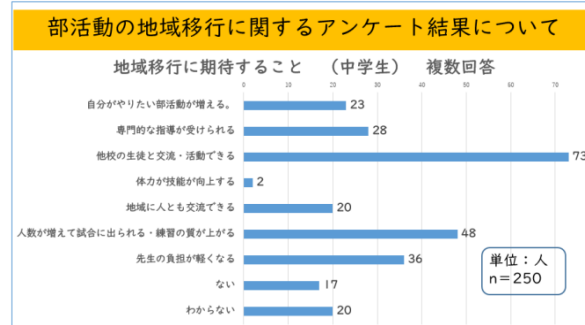
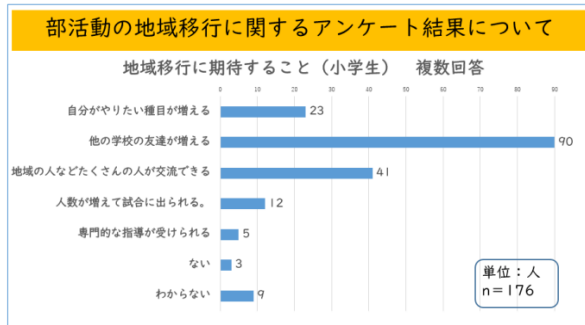
1. 調査の目的

国東市の小学6年生から中学2年生までの児童生徒とその保護者を対象にアンケートを実施し、今後の国東市の持続可能なスポーツ・文化芸術活動のための環境整備につなげていくため。

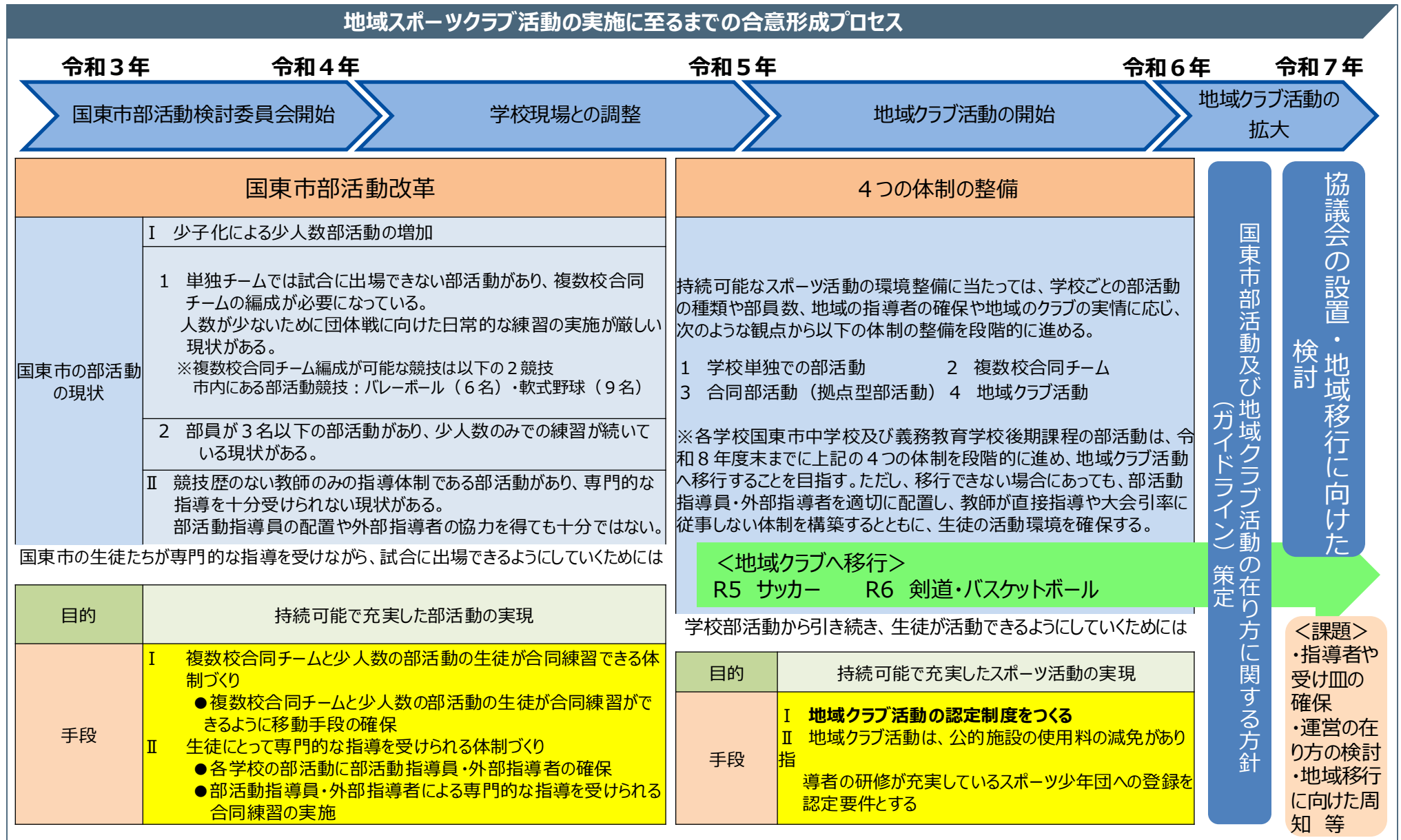
2. 【実施時期】令和6年2～3月【回答方法】オンライン・紙媒体

3. 【回答者数】①児童生徒数426名 回答率 85.5% (小176名/中250名) ②保護者数303名 回答率 60.8% (小146名/中157名)

●アンケート結果（一部）

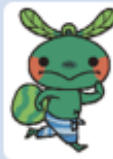


2.実証内容と成果②



地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

地域クラブ活動への移行スケジュール

	R6	R7	R8	R9
部活動検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> 地域移行の形（運営・実施主体）についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> 地域移行（体制整備）の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 地域移行（体制整備）の準備 	地域クラブ活動へ移行 
行政 （市教委・関係部局）	<ul style="list-style-type: none"> 地域移行の形（運営・実施主体）の検討 関係部局・機関との協議 	<ul style="list-style-type: none"> 運営主体（体制）について決定 体制整備 関係部局・機関との協議 	<ul style="list-style-type: none"> 体制整備 関係部局・機関との協議 	
◆ 学校・指導者との調整	<ul style="list-style-type: none"> 学校部活動の移行調整 練習場所の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 兼職兼業調査（意識調査） 練習場所の検討 （仮）夢さき活動の内容・ボランティア調整 	<ul style="list-style-type: none"> 兼職兼業調査（意識調査） 練習場所の準備 （仮）夢さき活動の内容・ボランティア調整 	
◆ スポーツ協会・連盟、スポーツ・文化団体等との調整	<ul style="list-style-type: none"> 可能な場合は、各種目で実施主体として取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な場合は、各種目で実施主体として取り組む 地域クラブ体制の検討・構築 総合型地域スポーツクラブとの関係構築・連携 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な場合は、各種目で実施主体として取り組む 地域クラブ体制の構築・準備 総合型地域スポーツクラブとの連携 	
◆ 保護者等への周知・広報	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会、HPで部活動ガイドラインの周知 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会等で地域移行について随時説明 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会等で地域移行について随時説明 	
○随時実施	地域クラブへの聞き取り、児童生徒・保護者アンケート、既存のクラブや環境の活用等			